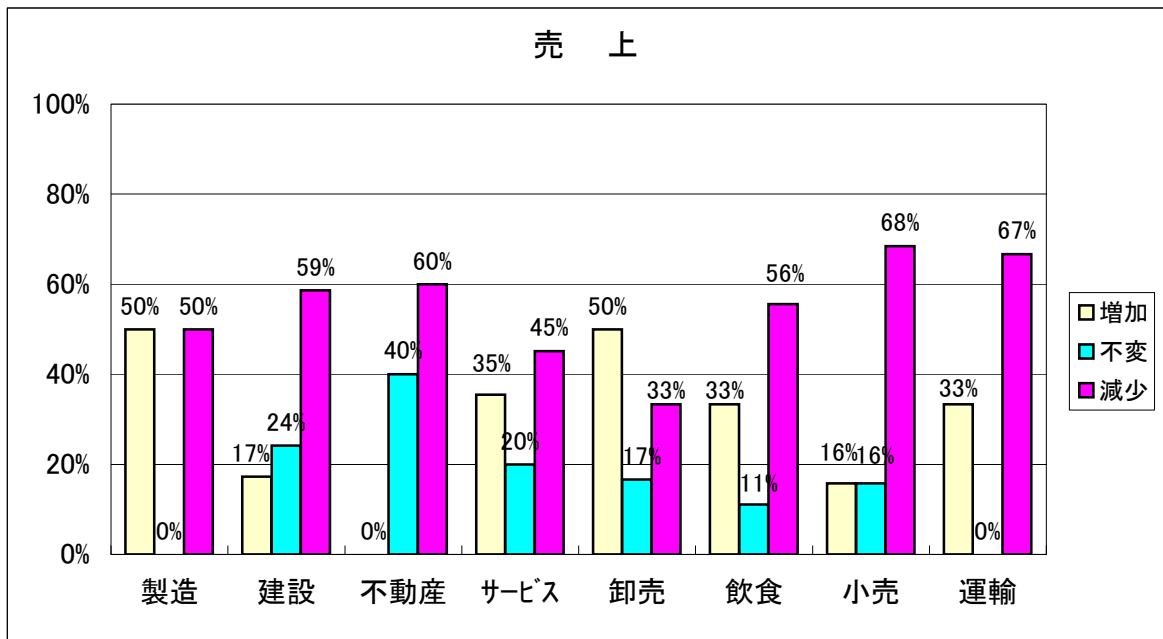


調査1 平成22年7月～12月の水準が、昨年同時期と比べてどのような推移をしているかを①売上 ②採算 ③仕入単価 ④従業員 ⑤業界の景気動向 ⑥資金繰り ⑦金融機関の融資状況の7項目について調査した。各項目について、業種別で集計したところ次のとおりとなった。なお、⑤業界の景気動向については過去の調査結果と及び今年下期の見通しと比較して表示してある。

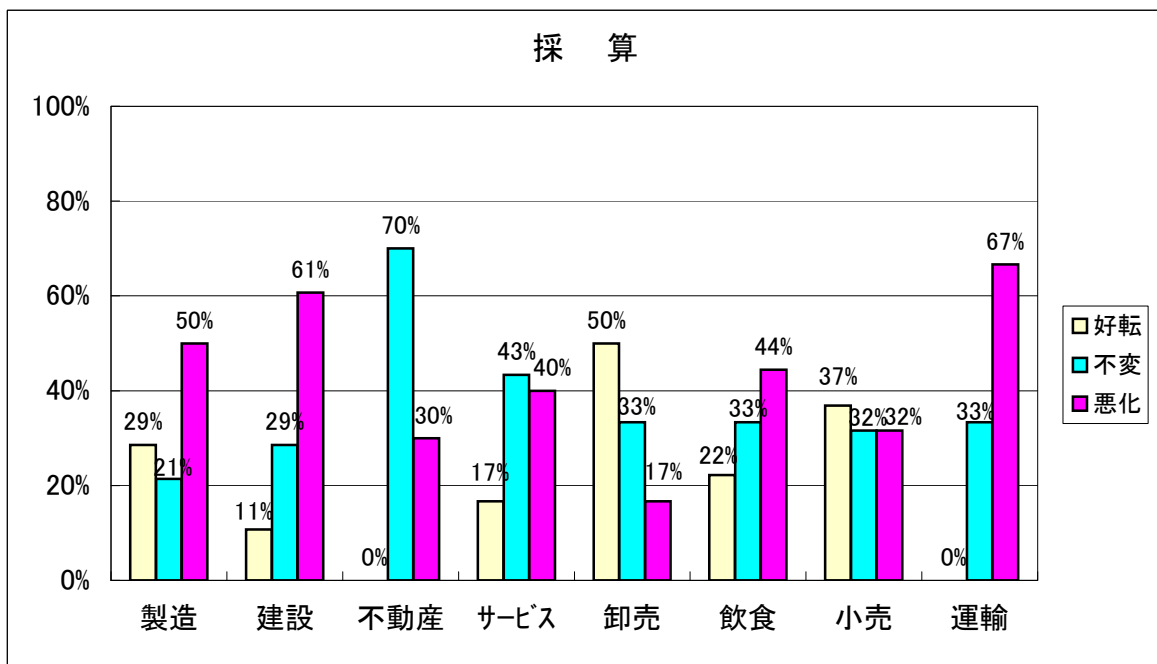
①売上について

卸売業が「増加」が「減少」より17%多く、製造業は「増加」と「減少」が同数であった。「減少」と回答が多かった業種は小売業(68%)、運輸業(67%)、不動産業(60%)、建設業(59%)となっており、全体で見ても「減少」傾向が強く、依然として厳しい状況が続いている。



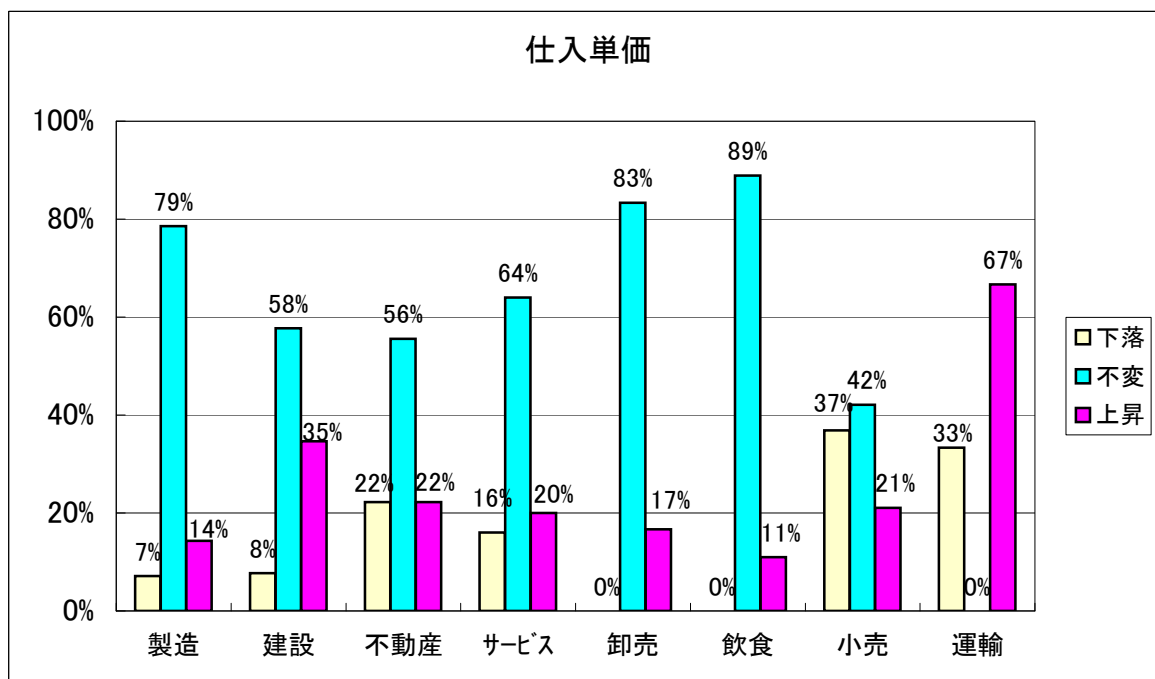
②採算について

採算で見ると、卸売業、小売業が「悪化」より「好転」の方が高く、改善されてきている。「悪化」の傾向が大きいのは、運輸業(67%)、建設業(61%)、製造業(50%)となっている。



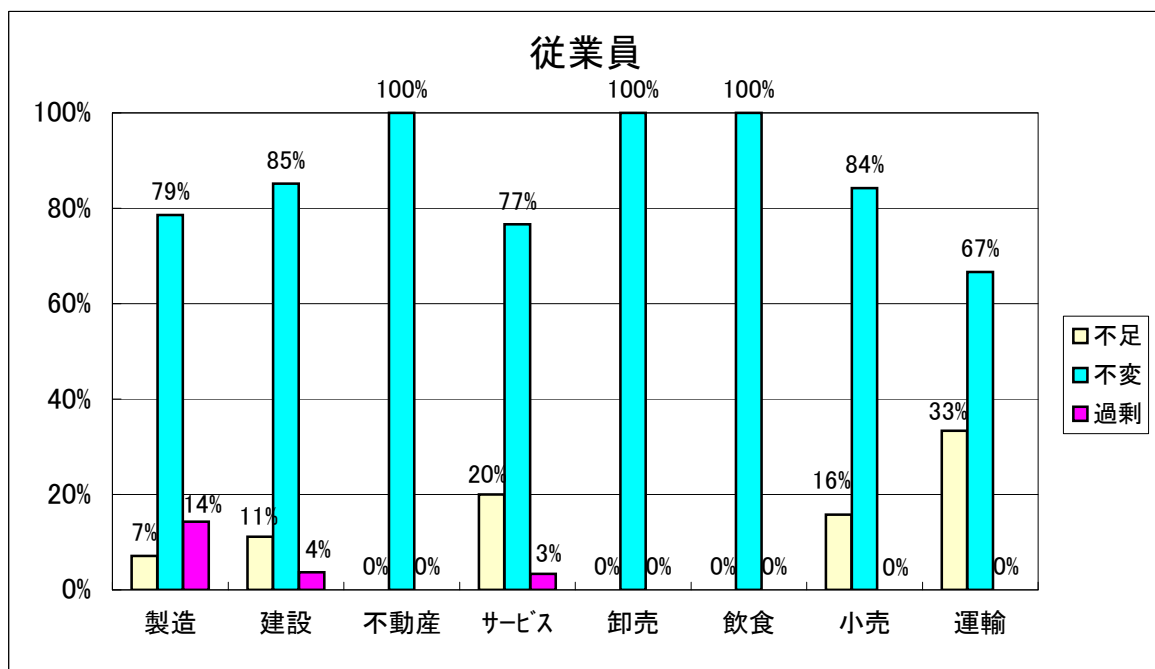
③仕入単価について

仕入単価で、「上昇」傾向が強いのは運輸業(67%)、建設業(35%)であった。原油価格の高騰が影響している。

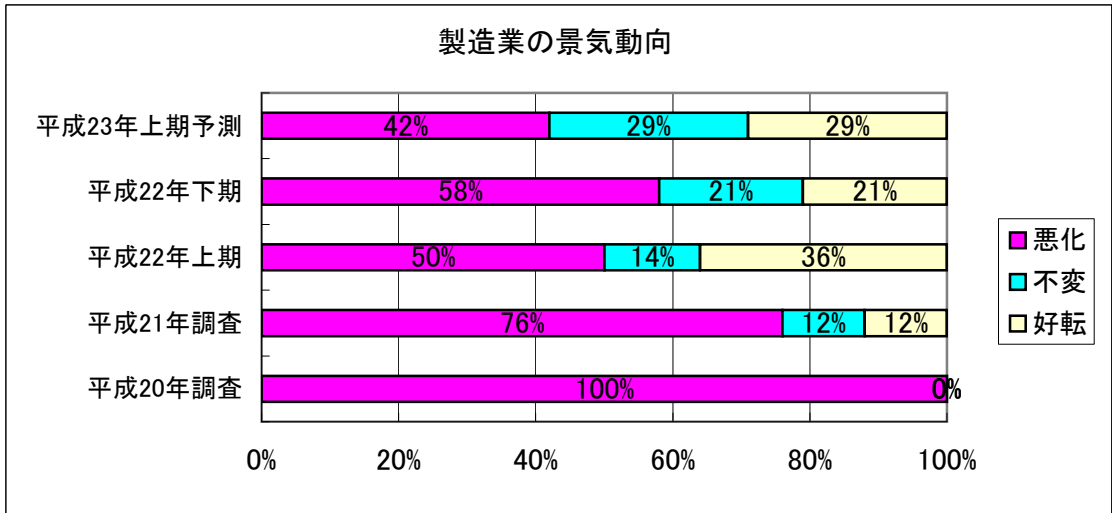


④従業員について

全体で見ると約88%が「不変」と回答し、「不足」が多いのが運輸業(33%)、サービス業(20%)、小売業(16%)となっている。

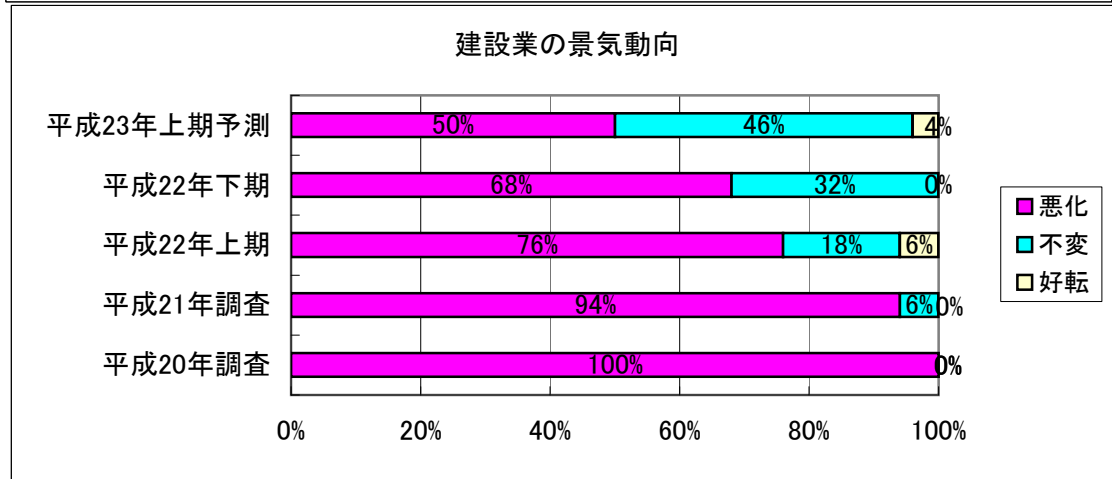


⑤業界の景気動向について



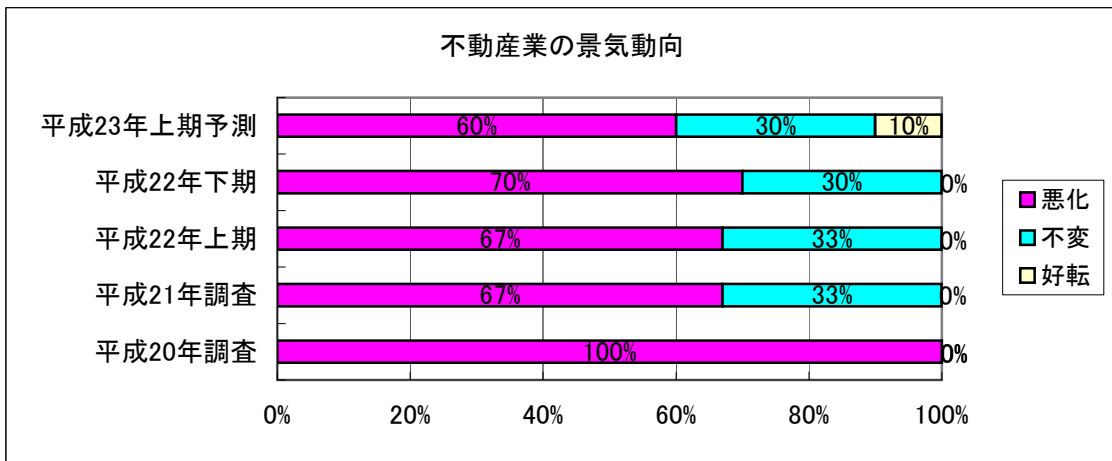
■製造業

平成22年下期では、42%の企業が「好転」「不変」と回答し、今年上期の見通しでは58%の企業が「好転」「不変」と回答している。徐々に明るい兆しがみえている。



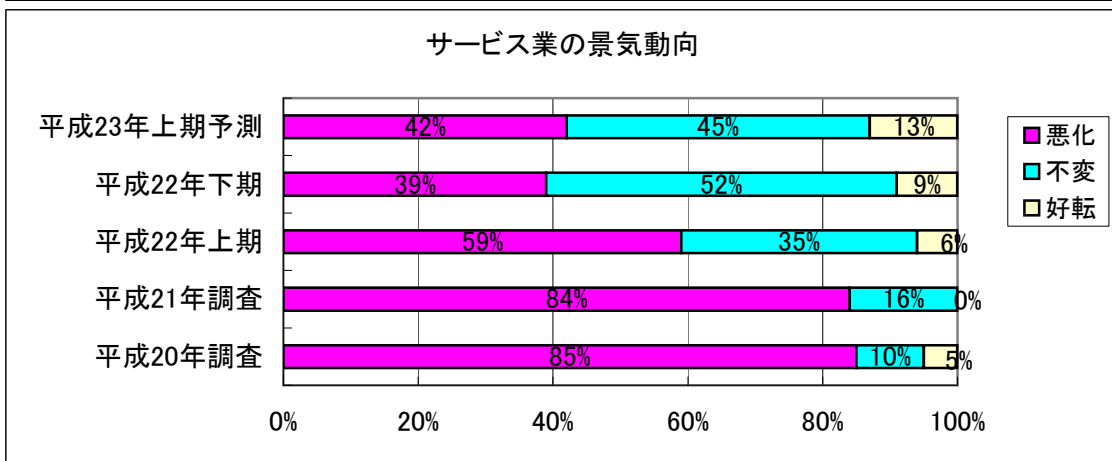
■建設業

平成22年下期では、「好転」が無く、「不変」が32%、「悪化」が68%であった。「悪化」傾向は徐々に少なくなりつつある。平成23年上期では、「好転」が4%となっている。



■不動産業

平成22年下期は、「悪化」が70%で前回より3%増えている。平成23年上期予測では、「好転」と回答した企業が10%あり、調査以来初めてである。

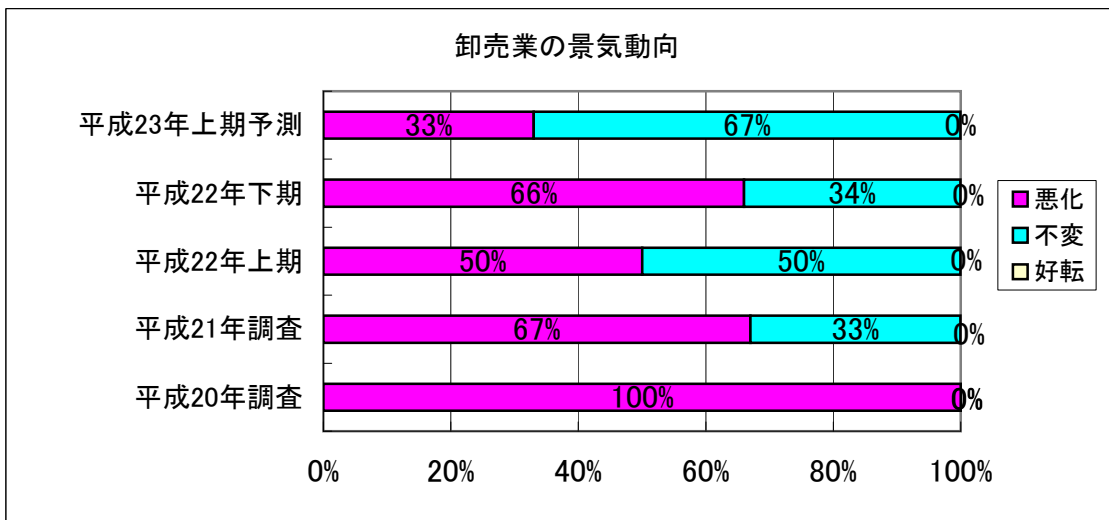


■サービス業

平成22年下期では「好転」が9%、「不変」が52%で、「悪化」が39%で徐々に好転になっている。平成23年上期では「好転」の予測した企業が13%であった。

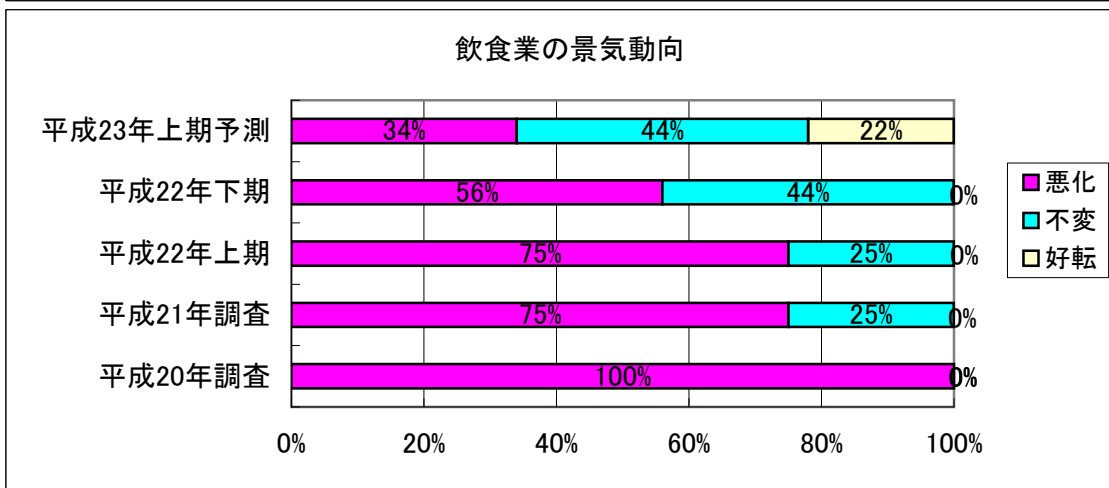
■卸売業

平成22年下期は「悪化」が66%で、①売上、②採算が増加傾向になっている企業はあるものの業界の景気動向は良くなかった。平成23年上期では、「悪化」33%で悪化傾向は減少している。



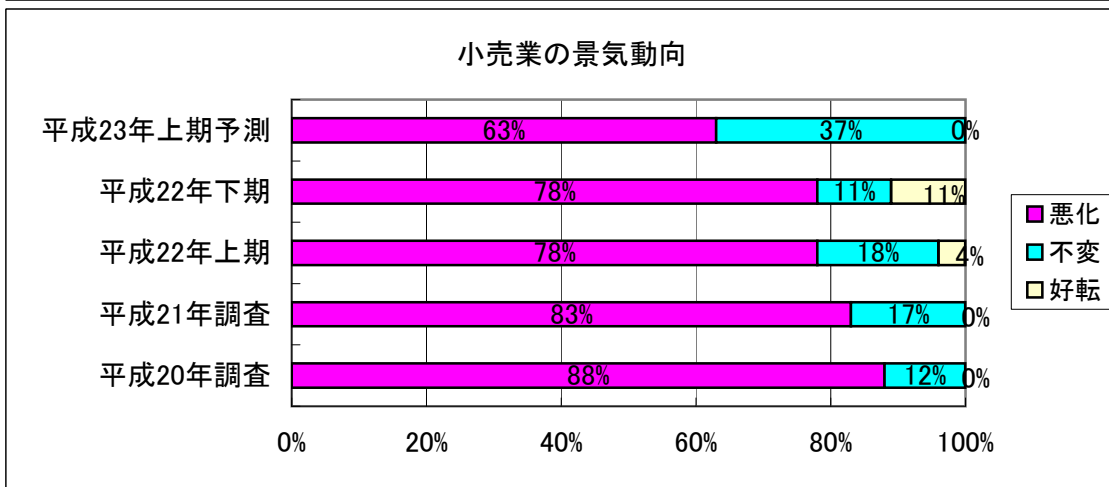
■飲食業

景気の低迷が続いていたが、平成22年下期では「悪化」が56%で上期に比べると19%減少しており、平成23年上期予測では調査以来初めて「好転」が22%あり、徐々に回復の兆しがあるように思われる。



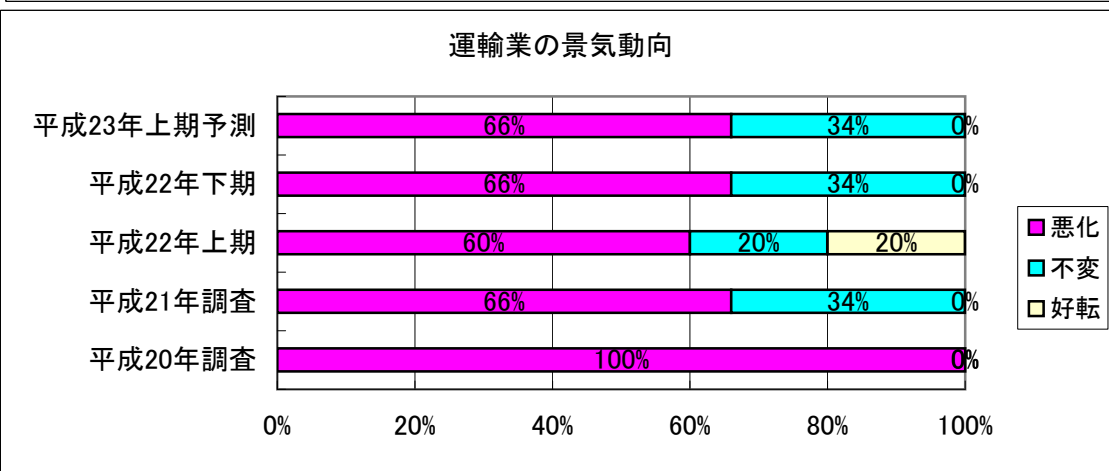
■小売業

平成22下期「好転」が11%となっているが、「不変」が11%「悪化」が78%と個人消費の低迷により、依然として厳しい景気状況が続いている。



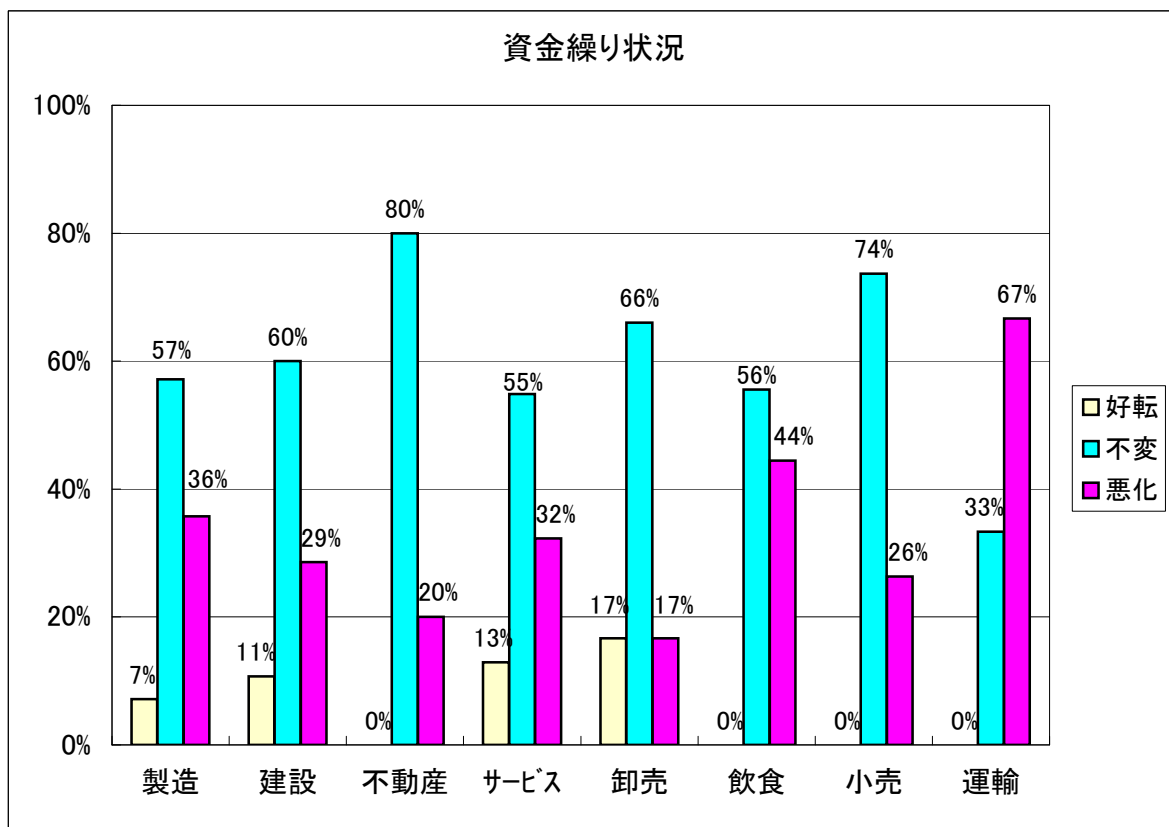
■運輸業

平成22年下期は「悪化」66%と前回調査に比べると6%アップし、原油価格の高騰、競争激化が響いている状況である。



⑥資金繰りについて

全体で見ると約60%の企業が「不変」と回答している。「悪化」が著しい業種は運輸業(67%)で前回調査と比べると47%上がった。



⑦金融機関の融資状況について

全体で見ると「緩やか」5%、「不変」43%、「厳しい」20%、「融資無し」32%で、前回(平成22年上期)調査と比べると、「不変」が13%減り、「融資無し」が10%増えた。業種で見ると、運輸業が「厳しい」と回答したのが33%あり一番多かった。

